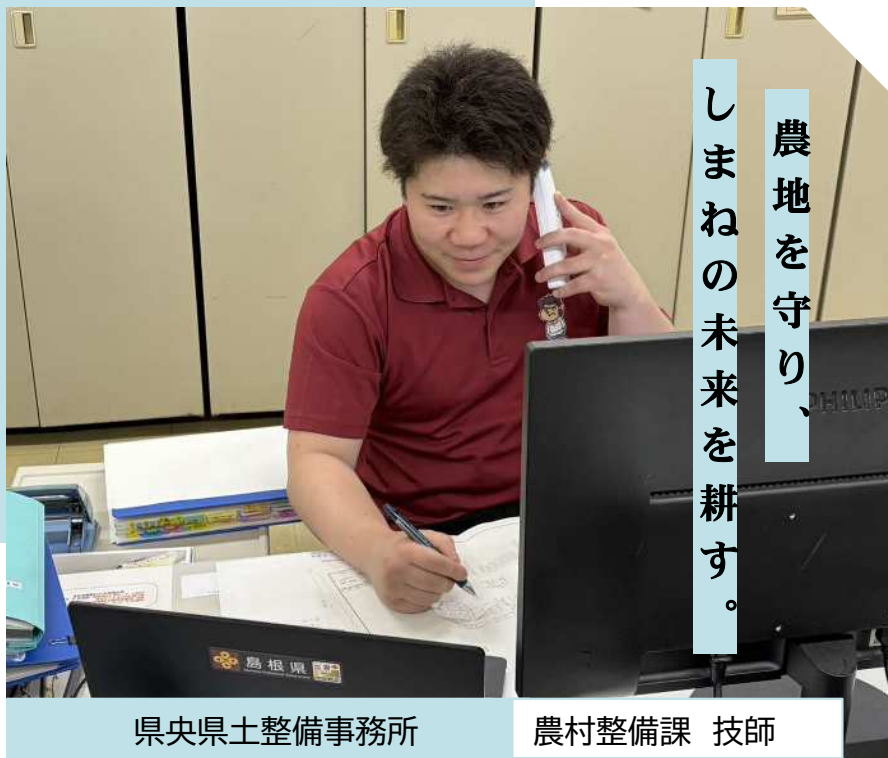




しまねの未来を耕す。
農地を守り、

県央県土整備事務所

農村整備課 技師

<採用> 令和4年度
<出身> 島根県
<これまでの職場>
R4～R6 出雲県土整備事務所
R7～ 現在の職場



県職員を選んだきっかけは？

ふるさとしまねに恩返しをしたい！

高校在学中、漠然と「ふるさとの島根県で働きたい」と考えていました。そんな中、就職活動中に参加したリクルートイベントで島根県の総合土木職について知り、仕事内容について調べる中で、高校で学んだ農業土木の知識を生かしながら、ふるさと島根に貢献できる仕事であることに魅力を感じ、島根県の総合土木（農業農村整備）職員を志望しました。

オフの過ごし方は？

ここにもあった！しまねの魅力再発見！

県職員にとって、人事異動による転勤は切っても切れないものです。リクルート活動でも、「転勤があること」を不安に感じる学生の声をよく耳にします。実は私自身も入庁前は、転勤についてあまり良い印象を持ってはいませんでした。しかし、実際に転勤を経験してみると、その考えは大きく変わりました。「こんなお店があるのか！」「こんな絶景スポットがあるのか！」「こんな施設やジムがあるのか！」など、知らなかった島根の魅力に数多く出会うことができたのです。今では、次の転勤も「しまねの魅力を見つける旅」だと思いながら、県職員生活を楽しんでいます。

現在の仕事内容は？

農村地域の声をカタチに

私の仕事は農業農村整備事業の測量設計業務や工事の監督員を担当しており、現在は主にため池整備や農道整備などに携わっています。地域の方々や受注者（測量・設計業者、施工業者）の皆さんと密にコミュニケーションを取り、地域全体を活性化するために日々頑張っています。地元の方からの温かいお言葉をいただいた際や自らが携わったものがカタチに残ることは大きなやりがいを感じます。

印象に残っているエピソード

完成の先にある達成感と成長

島根県の総合土木職の魅力は、計画から完成までのすべてに携わることができることです。また、天候や現場の条件など様々な課題を解決しながら工事を進めるため、「工事完了時の達成感」と課題解決のために思考錯誤することによる「自分自身の成長」の両方を感じられることも魅力です。実際の工事に携わることで、計画通りにいかないことや現場で発生した不測の事態に対して課の先輩・上司はもちろん、地域の方々や受注者の皆様と協議を重ねることで新たな気づきもあり、日々、自身の進化を感じています。